



会えない子どもへの家庭訪問 ～ 安心できる関係づくりを ～

不登校の子どもへの家庭訪問をしています。部屋から出てこず、会ってくれません。プリントを母親に渡すだけの訪問が続いています。このままでよいのでしょうか。



自分自身を責めている子どもにとってはこんなイメージなのかもしれませんね。



会えない時は、無理に会おうとせずに、プレッシャーを与えない関係づくり。

先生の精神的な負担も大きいでしょうね。まず、会えない子どもの気持ちについて考えてみませんか。多くの子どもは自分自身を責めています。できれば考えたくない。しかし先生に会うと、自分の状態を意識してしまう。それがつらくて先生を避けてしまうのではないのでしょうか。

- ・期待に応えられない。期待されることもしんどい。
- ・先生が帰った後、親がため息をつくのがつらい。
- ・どう行動するかを先生に決められそうで怖い。

ですから、会えない段階の子どもには、学校を意識しないで済む工夫や、「自分はダメだ」と思わなくても済む工夫が必要だと思います。例えば…

- ・「先生が来ると親が笑顔になる」と子どもが感じることを目的にしてみる。保護者と楽しく世間話をして短時間で帰る。
- ・プリントを渡すかどうかは相手の気持ちを確かめて。場合によっては、持って行かない判断も。
- ・子どもの興味を聞いて、好きなものを持って行く。
- ・「読まなくてもいいよ」と伝えて手紙を渡してみる。読むかどうかは子どもに任せる。保護者にも催促させない。
- ・「会いたかった、残念」の言葉は負担になる。「先生が勝手に来ているだけ。ごめんね」という姿勢で。

子どもに会えなくても、先生の訪問を子どもが安心して感じられることが大事。いろいろ試してください。

不安な保護者を支えることの方が、子どもの安定につながる時期もあります。保護者のあせる気持ちをなだめて、顔を洗ったとか、食器を片付けたとか、家庭での小さな変化を保護者と一緒に喜び合えればいいですね。

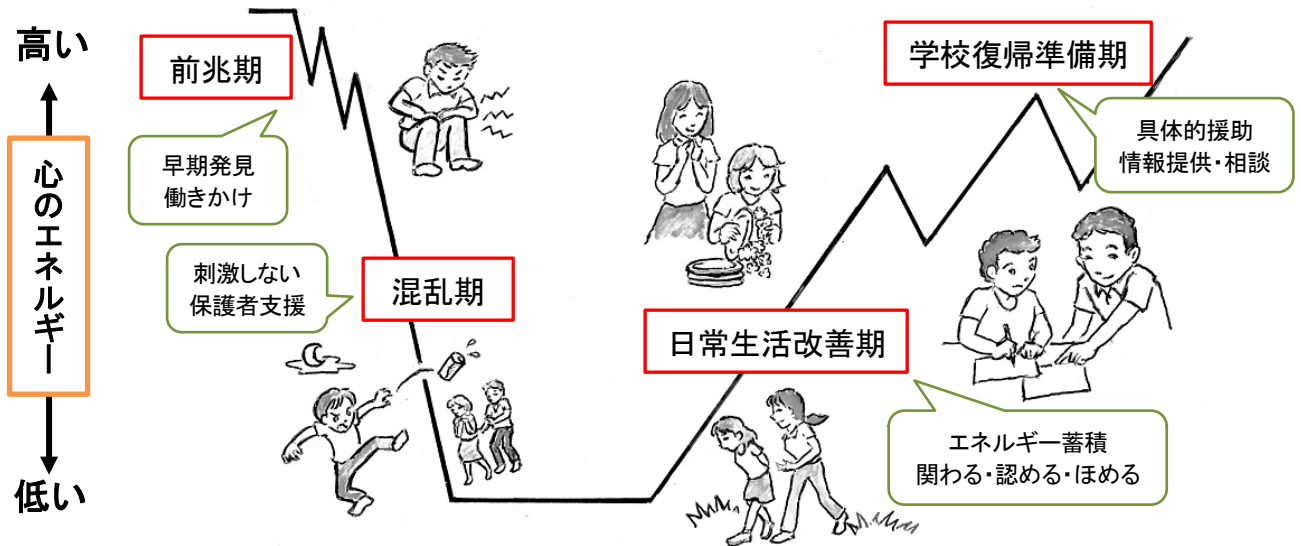
先生との関係を糸電話に例えた子どもがいました。「無理に引っ張らないで、でも糸は離さないで。いつか応えようとした時に、糸が張っていないと僕の声が伝わらないから」と。子どもがいざ動こうとする時に、寄り添っている人がちゃんといてくれることが支えになると思います。

見直すポイント

- ①会うことよりも、安心できる関係をつくることを目的に
→寄り添っている関係が、いざ動く時の支えになる。
- ③親が元気であることが、子どもの元気を生む
→小さな変化を喜びに、保護者を励ます。

不登校の段階的な支援 ～ 登校刺激はいけないのか？ ～

登校刺激はいけないと言われましたが、見守るだけでよいのでしょうか。家庭で暴れることもあるらしく、保護者も心配されています。どのように関わればよいのでしょうか。



1 前兆期（行きたくない気持ちが進行）

- ・遅刻や早退が増える。体調不良を訴える。
- ・一人であることが多くなる。
- ・保護者への甘え、教師への批判が増える。

【関わり】

（早く積極的に関わり、孤立させない）

- ・原因がある場合は、まず原因を取り除く。
- ・不安に寄り添い、教師は味方だと伝える。
- ・保護者との関係を築く。

2 混乱期（不登校の初期）

- ・頭痛・腹痛・発熱などの身体症状がある。
- ・生活習慣が乱れる。（食事、睡眠など）
- ・学校の話に拒否感を示す。
- ・攻撃的になったり無気力になったりする。
- ・保護者も混乱、焦り、不安が見られる。

【関わり】

（食と眠を目標にする。保護者支援を中心）

- ・安定を優先し、つらさを共感する。
- ・拒否なら無理に会わず、保護者の不安軽減を。
- ・洗顔、着替え等、家でもできることを目標に。

3 日常生活改善期（不登校の中期）

- ・生活習慣が安定する。
- ・気持ちが外に向く。趣味や遊びに関心を持つ
- ・自分の気持ちを言葉にでき、会話が增える。
- ・手伝いや家族への気遣いをする。

【関わり】

（人との関わりと体験で、エネルギーを蓄える）

- ・子どもの興味に関心を示し、一緒に活動する。
- ・ささやかなことでも認める、ほめる。
- ・不登校のきっかけが語られたら、じっくり聴く。
- ・今後の見通しと希望を伝える。
- ・人と関わる場面を増やす。支援施設を紹介する。

4 学校復帰準備期（不登校の後期）

- ・自分を肯定する言葉が出る。
- ・学校の話も笑顔で聞き、関係者にも会える。
- ・学習を始める。
- ・「つまらない」「暇」「退屈」と言う。

【関わり】

（具体的な援助をする）

- ・進路や学習などの情報を提供する。
- ・いつ、何に参加する等、自己選択・自己決定を促す。
- ・本人を信頼して援助しても、約束はさせない。
- ・受け入れの人、場所、時間、登校方法を準備。

【参考】 「学校復帰支援ガイドライン」兵庫県立但馬やまびこの郷
「不登校支援 心のエネルギー曲線」佐賀県教育支援センター